

2月9日(水)

本年度第28回(通算2574回)18時30分～ 釧路プリンスホテル

『RI創立記念・アクト合同会議』

担当/理事会・新世代委員会

☆お客様と来訪ロータリアン

- | |
|---|
| ・会長 北川裕士君・副会長 永坂亜希子さん・幹事 小林美穂さん |
| ・理事 大町勇太郎君、福島未希さん、小甲薫さん、畠山優那さん (釧路北RAC) |

☆メイクアップ

2月12日	中嶋嘉昭君・坂入信行君・北川健二君・迫田 武君 萩原昭博君・小松亮次君	米山セミナー
-------	--	--------

☆出席報告【会員総数65名 免除11名 出席計算に用いた会員数65名】

次週の報告と致します

☆ニコニコ献金 (今年度累計 475,000円)

- | | |
|----------------------------------|--------|
| ・長内先生今晚は宜しくお願い致します | 三原克也君 |
| ・本日はアクトとの合同例会です。長内先生ビデオ楽しみにしています | 泰地浩幸君 |
| ・長内先生のご多忙中ありがとうございます | 中嶋嘉昭君 |
| ・長内先生今晚は宜しくお願い致します | 村井順一君 |
| ・アクトのみなさん楽しく致しましょう | 坂入信行君 |
| ・アクトとの合同例会です。楽しみにしています | 境 弘伸君 |
| ・結婚14年経ちました。 | 富樫孝之君 |
| ・節分の時は恵方巻きを食べました | 小野寺英夫君 |

☆会長挨拶

皆さんこんばんは。今日はアクトの皆さんを迎えてのRI創立記念例会です。1905年2月23日シカゴロータリークラブが誕生し、その日がロータリーの創立記念日となっております。歴史的に見てもロータリーは職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりです。今年度北ロータリークラブではできるだけ多くのロータリアンから、会員卓話(職業を互いにもっと語り合おう)をいただくよう努めております。

ロータリーの誕生そしてその成長が1世紀以上続いている現実を、この機会に改めて考えてみたいと思います。長内パスト会長には大変お忙しい中、講話をお願いいたしました。

今日の講話は、一部DVDを流しまして、皆さんの中には初めて目にする、または耳にする内容のものもあるのではとお聞きしておりますので、大変楽しみにしております。アクトの皆さんと共に今日の例会を共有できる事に感謝し、会長挨拶といたします。

☆幹事報告

- ①本日回覧しているものを報告します。
 - ・ロータリー日本財団様より税制上の優遇措置に関するお知らせが届いております
 - ・ロータリーの友事務局から次年度の手帳の予約受付です。
 - ・ザ・ロータリアン
- ②釧路ベイRCより女性の会員様にひな祭り例会のご案内が届いております。参加される方は 私までご連絡お願い致します。
- ③月報をメールBOXに入れました。ご確認お願い致します。



☆講師

長内 宏 君

お正月のおとそ気分の抜けないうちに、三原会長・泰地幹事の連名で出頭命令が届き今日は喜んで参上致しました。

今日は、RACの皆さんとRI創立記念合同例会と言うことで、大変意義の有る例会でスピーチをさせて頂く光栄を、心から感謝をしております。振り返ってみますと、昨年も、このRI創立記念日にお話させて頂いておりますので、同じネタも面白くないと思ひ少し考えました。1番良いのは、このロータリークラブを作った、ポールハリスご自身にお話頂くのが一番であろうと思ひまして、後ほど彼が語ったDVDをご覧いただき思ひます。最初にRIの創立者であるポールハリスに触れます。彼の人間像、人物像を知る事が大切でしょう。彼が、どんな人間であったか、人となり、或いは考え方、日頃の行い、生き方などを見る事が大切でしょう。さらに、彼の語録も少し調べて参りました。

ロータリーがどうして創立をされたのか? シカゴRCはが、どんな事情で誕生したのかは沢山の資料があります。重複を避けたいので割愛させて頂きますが、幾つかロータリアンとして覚えておかなければならない事が有ります。それは1905年2月23日が初めての例会となっております、この時は、ポール・ハリス(弁護士)、ガスターバス・ローア(鉱山技師)、シルベスター・シール(石炭商)、ハイラム・ショーレー(洋服商)この4人がガスターバスの事務所で集り、ポール・ハリスが5年間心に秘めていた計画、友情で結ばれた親睦・助け合いの会を持つことは出来ないものかと提案し了承され、その夜の会合を第1回目とし創立記念日としました。

次に当時のシカゴの街、時代背景がどうだったのか。更に、その後のRCの発展はどうなったか。社会奉仕の仕方は色々な考え方が有ります。RCが解体・分裂の危機もありました。その時に、メルビン・ジョーンズがRCと袂を分けて新しい団体を作ったがライオンズクラブです。根の部分は何れでも奉仕の仕方が随分違います。

さて、ポールハリスの人格形成は、3歳頃両親から離れて、ニューイングランドの豊かな自然環境のなか祖父母の手で育てられ、大学卒業後5年間で世界中を旅し見聞を広めた事が、RCの形成に非常に影響したと思ひます。ラインハートと言うポールハリスと共同経営者で、後にロータリアンにもなった弁護士が、ポールハリスを、静かで厳格、律儀で正直な弁護士、高い理想を掲げて自分の職業に誇りを持っていた。また、ポールハリスが書いた職業倫理の真価と言う論文は、誰もが一読する価値が有る物であると表してました。

また、1935年頃の彼にインタビューした記者は、イングランドの貴族、気さくで控えめで飾らず穏やかに語っていた。と言っていました。そして、彼は42歳でジーンと結婚しました。彼は、結婚後1ヵ月余りでRCの全国組織を立ち上げる準備をしながら、2つの事で悩んでいました。1つは、弁護士の仕事を割愛し全国を旅行出来るだろうか。2つは旅行始めると止まらなくなってしまうのではないかと悩みましたが、どちらも長年適度に成功させていました。彼は、自分が作ったのは水源であって、やがて何千人もの人が支流を作り、知識や愛を注ぎ込んでロータリーは大きな組織なり、そして人間のあらゆる運動の真実・真理その真髓を達成するため永遠なる力(エターナルパワー)を認め無ければならないと言っていました。

最後に彼の語録を紹介しましょう。『ロータリーの前途には長い道のりがあります。ロータリー運動を完成品と思う人は実際、近視眼的な物の見方をしている。そのような見方を正当化出来るものは、これまでのところ何もありません。ロータリーに長く関わってきた人は、ほんの始まりと考えます。ロータリーは今後、華々しく開花するに違いありません。僅かな年月で43カ国に広がった運動は、あらゆる国に広がるまで波のように押し寄せる運命を辿るに違いありません。全ての国に広がった時が、その広がった区域を力強く耕す事なのです。成すべき事は、いつも充分あります。人類を向上させる運動の倫理的概念が全てを包み込む概念です。ロータリーは全ての人の生活に影響を与える運動となるまで、自己満足してはなりません。ロータリーの規定は非常にシンプルで、その教義は誰にも受け入れられるのですがロータリーの指導者は、ロータリーに多大な影響力があると見なしたからと言って、決して夢見る人とは言いません』『今から100年後にロータリーは、どうなっているのでしょうか。生きている人には想像もつきません。現在のロータリーにとって不可能な事はありません。私はロータリーは生き続けると信じています。生きているなら発展するでしょう。いつか、現在の会員資格によって課せられる責務を遂行出来なくなる時が来ます。私達は冷酷な掟に従って年老いて行くに違いありません。その時、私はどうするのでしょうか。退会しますか? たぶん退会しないでしょう。もし退会しなければ大なるロータリーの夜明けが、その時来るでしょう』と語っています。彼が現在のRCの発展を見たら本当に涙を流して喜ぶでしょう。

今年度も三原会長を中心にメンバーの絆を強めて新しいロータリーに向けて我が北クラブが発展するよう、心から祈念しています。

本日は有り難うございました。